

平成 29 年度 第 3 回大阪地方会 活動報告

平成 30 年 1 月 20 日 (土)

於：大阪労災看護専門学校

平成 30 年 1 月 20 日 (土) 大阪労災看護専門学校にて、平成 29 年度 第 3 回大阪地方会を開催いたしました。当日はお天気もよく少し暖かく感じる日差しの中、会員 39 名 非会員 121 名、合計 160 名の方にご参加いただくことが出来ました。世話人一同、感謝申し上げます。



初めに大阪労災病院 医事課長の廣川格彦様より開会のご挨拶をいただきました。最近ではどの医療機関でも、医師事務作業補助者は医師にとっては、なくてはならない存在となっておりますが、病院経営にとっても非常に重要な役割を担っている。しかし、誰にでも簡単に行えることではなく、臨床知識が備わっていないと難しい業務である。このような勉強会の機会に知識の幅を広げて、今以上に医師のサポートを行ってほしい。本日の講師である平尾元宏先生は患者様へ対する説明も非常に丁寧でわかり易いと評判ですので、皆様にとってよい勉強になると思いますと期待を込めたお言葉をいただきました。

最初の講演は『肝炎ってなに？肝炎治療受給者証診断書・臨床調査個人票ってどう書くの？～ウイルス性肝炎&肝炎指定難病の治療・検査の解説～』と題して、大阪労災病院 消化器内科 副部長の平尾元宏先生にご講演をいただきました。肝炎の定義、B型肝炎とC型肝炎の違いなどに始まり、最新の肝炎治療についても、詳しくご講演いただきました。そして、それぞれの書類の認定基準や記載必要項目などもご説明いただき、実務者にとってわかり易いものであったのではないかと思います。



続いて、『血管疾患のお話し～腹部大動脈瘤から下肢静脈瘤まで～』と題して、大阪大学医学部 心臓血管外科 特任教授の渋谷 卓先生にご講演いただきました。循環器系の疾患は私たちにとっては、難しく感じる領域のひとつではありますが、「がんは建物のどこかの小部屋でボヤが起きているが、血管疾患は建物のパイプラインに問題がある。」「血管をゴムホースに例えると・・・」というように優しい表現の例えでご説明いただき、身近に感じるこ

とができました。また下肢閉塞性動脈硬化症の生命予後は進行癌の予後に近いものであることもご説明いただき驚いた方も多く、とても理解しやすい内容であったのではないかと思います。



恒例の支部長賞のジャンケンも平尾元宏先生に行っていただき、終始和やかな雰囲気でした。

最後に、大阪府支部の西川支部長より、医師事務作業補助体制加算が導入されてから10年が経過し、今までの10年が基礎固めとすれば、これからの10年は私たち医師事務作業補助者の真価が問われる10年になるのではないかと。医師にとって、病院にとって、組織にとって、本当に必要とされる存在になれるように、更なる努力が必要であると思うとのこと。今後もこのような勉強会の場で、お互いに情報交換をしながら交流を深め、医師事務作業補助の発展に繋げていきたいと考えているので、引き続き皆様からのご支援、ご賛同をお願いしますとの言葉で閉会となりました。

今後も参加者の皆様の業務に活かせるような講演や勉強会を企画し、医師事務作業補助の更なる成長と、知名度向上とともに資格制度を目指したいと思っておりますので、ご支援の程よろしくご厚意申し上げます。

最後になりましたが、今回の地方会にご参加いただきました皆様、準備段階からご協力いただきました全ての皆様方に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

NPO 日本医師事務作業補助研究会
大阪府支部 副支部長 事務局
府中病院 堀田 恵